

研究論文

大学生の職業認知に関する調査

朝 日 素 明*

A Survey on the Students' Recognition of Occupation

Motoaki ASAHI

【要 約】筆者が担当する「職業指導」の授業において、受講者を対象に「大学生の職業認知に関する調査」を実施した。調査票は旧日本労働研究機構の資料シリーズNo. 112『中学生・高校生の職業認知』と同じものを用いたので、この結果との比較を交えて簡潔に調査結果を提示する。本稿では「イメージできる」「知りたい」「やってみたい」の3指標についての結果を示す。大学生の職業認知においては、全体的に、「イメージできる」、「知りたい」、「やってみたい」とポジティブに認知される職業には概して高校生と共通するものが少なく、「イメージできない」、「知りたい」と思わない、「やってみたい」と思わないとネガティブに認知される職業には高校生と共通するものが多い。また、工学部と経営情報学部の学生間の差を見てみると、それぞれの専門、関心に応じた違いがみられた。

* 摂南大学外国語学部

1. はじめに

筆者は本学に設置された教職課程において、「高校・工業科」と「高校・商業科」の免許状取得に必修の教科に関する科目である「職業指導」の授業を担当している。受講者は本学工学部の各学科と経営情報学部の経営情報学科に在籍する3・4年次生である。高等学校における職業指導、進路指導を念頭において授業を進めているが、そこで、高校生が職業に関する情報や知識をいかに入手・獲得するかについての講義のなかで、旧日本労働研究機構（現、労働政策研究・研修機構）が刊行した『中学生・高校生の職業認知』（資料シリーズNo. 112、2001年3月）を用いながら、この問題について考えさせている。この資料の中には筆者自身も初めて知るといえるような職業名が多く登場しており、果たして筆者の授業を受講する学生たちもそれらの職業をどの程度認知しているのかということについては、たいへん興味深いものがある。もちろん興味深いだけでなく、彼ら／彼女らが実際に教員として現場に立ったときには、生徒に対する進路指導上これらの職業を認知しているということが重要になってくる。

そこで、筆者の授業におけるこの問題への動機づけの意味も含めて、受講者である大学生に『中学生・高校生の職業認知』の中で行われているものと同じ調査を施してみた。いうまでもなく、筆者の授業中にその結果については学生に対してフィードバックしており、彼ら／彼女らは中学生・高校生の職業認知について学ぶだけでなく、自分自身の職業認知の態様を対象化して学ぶことにもなるのである。

本稿は、筆者の授業中に受講生を対象に実施した職業認知に関する調査の結果を、日本労働研究機構（2001）の中の高校生に対する調査結果との比較も交えながら、簡潔に提示するものである。

2. 「職業認知に関する調査」の概要

本稿で示す調査結果は、日本労働研究機構（2001）の中で行われた調査と同じ調査票を用いて得られたものである。

日本労働研究機構（2001）では、424の職業名を列挙し、それぞれ「イメージできない」「知りたい」「やってみよう」という3つの指標について「はい」「いいえ」で評定させている。424職業というのは、「職業ハンドブック CD-ROM 検索システムVer. 1.1」に掲載されている282職業に、「2000年3月時点で製作中の「中高生版職業ハンドブック（仮）」への収録を検討中」の182職業を加えたものであるという。調査対象は中学生2,021人、高校生2,378人の計4,399人であった。ただし、この4,399人全員が424もの職業すべてについて評定するのは負担が大きいため、対象者、職業名を三分割して調査を実施し、それを総合して『中学生・高校生の職業認知』の結果にしたとのことである。

したがって、およそあらゆる職業（424職業）についてひとりの人間がどのように認知しているかを明らかにするものではないという点が、筆者が授業中に行った受講者対象の調査とは異なる点である。筆者が行った調査では、職業こそ三分割しているが、3回の授業にわたって

調査を実施したため、同じ受講者がすべての職業について回答することになる。なお、調査票の詳細については日本労働研究機構（2001）を参照されたい。

筆者の調査は、2005年4月8日、4月22日、5月13日の3回の授業時に実施された。授業に出席し、このうち1回でも調査に回答した受講者は33人おり、うち3回のすべてに回答した受講者は18人であった。有効回答は、第1回目（4月8日）が29、第2回目（4月22日）が23、第3回目（5月13日）が25である。以下ではこの調査結果を提示していく。

3. 「イメージできない」職業のランキング

まず、「イメージできない」職業のランキングを下位（表1）・上位（表2）それぞれ30位まで表示しよう。調査票ではそれぞれの職業について「イメージできない」ものに印を付けることになっていたから、「イメージできない」率の下位の職業というのは印が付けられていない職業、すなわち「イメージできる」職業ということになる。これにしたがってランキングを以下に示してみる。その際、日本労働研究機構（2001）の結果を参照・引用して高校生に対する調査結果と比較しながらみていくことにしよう。

表1 「イメージできない」職業ランキング・下位¹

職業名	大・人数	大・%	大・順位	高・「イメージできる」%	高・順位
一般事務員	0	0.0	1		
学習塾講師	0	0.0	1		
学校事務員	1	3.4	3		
美容師	1	4.0	4	94.29	4
医師	1	4.0	4		
看護師	1	4.0	4		
日本語教師	1	4.0	4		
フラワーショップ店員	1	4.3	8	92.81	20
ペットショップ店員	1	4.3	8	94.33	2
書店店員	1	4.3	8	93.57	9
ホテルフロント係	1	4.3	8	93.32	12
警察官	1	4.3	8	94.33	2
栄養士	1	4.3	8		
自動車教習所教習指導員	1	4.3	8		
中学校教員	1	4.3	8	93.69	25
テレビカメラマン	1	4.3	8	93.44	10
カメラマン	1	4.3	8	93.69	8
宇宙飛行士	1	4.3	8		
受付事務員	2	6.9	19		
商品開発部員	2	6.9	19		
ファッション商品販売員	2	6.9	19		
洋菓子職人	2	8.0	22		
土木技術者	2	8.0	22		
プログラマー	2	8.0	22		
会社経営者	2	8.0	22		
バーテンダー	2	8.0	22		
ホテル客室係	2	8.0	22		
日本料理調理人	2	8.0	22	92.64	28
歯科医師	2	8.0	22		
高等学校教員	2	8.0	22		
声優	2	8.0	22		
インテリアデザイナー	2	8.0	22		
ガラス工芸家	2	8.0	22		
シナリオライター	2	8.0	22		
画家	2	8.0	22		
動物園飼育スタッフ	2	8.0	22		

¹ 「大・%」は今回の筆者による大学生調査での「イメージできない」の指摘率。「大・順位」は「大・%」に基づいて付けた。右方の「高・「イメージできる」%」および「高・順位」は、『中学生・高校生の職業認知』において、高校生の結果として「「イメージできる」ランキング上位30位」にランクインしたもののみ率と順位を表示した。以上の点は以下の表2、表3、表4、表5も同様である。また、「高・「イメージできる」%」の数値は、「イメージできない」の数値を100から減算して求めた数値、すなわち「イメージできる」率とのことである（日本労働研究機構 2001：pp. 27-29）。この点は次の表2も同様である。

表2 「イメージできない」職業ランキング・上位

職業名	大・人数	大・%	大・順位	高・「イメージできる」%	高・順位
プロセス製版オペレーター	23	92.0	1		
電算写植オペレーター	23	92.0	1		
パヒューマー	21	91.3	3	10.97	1
プラント設計技術者	26	89.7	4		
NC放電加工工	25	86.2	5	17.62	6
パタンナー	24	82.8	6		
ディスパッチャー	19	82.6	7	22.07	14
テラー	20	80.0	8	21.70	13
DIY店員	20	80.0	8	30.46	21
リペアーショップ店員	20	80.0	8		
NCフライス盤工	23	79.3	11	14.58	2
パークレンジャー	23	79.3	11	29.91	20
オフセット印刷作業員	18	78.3	13	29.89	19
バイオケミカル技術者	19	76.0	14	28.55	17
マシニングセンターオペレーター	17	73.9	15	20.93	11
圧延工	21	72.4	16	19.90	8
織布運転工	21	72.4	16		
NC研削盤工	16	69.6	18	16.52	3
テラー・貸付係	20	69.0	19	29.15	18
DPEショップ店員	20	69.0	19	31.94	23
医療ソーシャルワーカー	20	69.0	19	33.46	25
産業カウンセラー	20	69.0	19		
NC旋盤工	17	68.0	23	16.88	4
アクチュアリー(保険経理人)	17	68.0	23	37.56	27
管理的公務員	17	68.0	23		
発破員	15	65.2	26	38.59	28
テクニカルライター	16	64.0	27	30.58	22
紡織保全工	18	62.1	28		
IC生産オペレーター	15	60.0	29		
保温工	15	60.0	29		

表1、表2に示した結果から指摘できるのは、「イメージできない」職業ランキングの下位(表1)では高校生のランキングと重複するのは10職業しかないが、上位(表2)には重複する職業が19もランクインしていることである。つまり、大学生と高校生とでは「イメージできる」職業より「イメージできない」職業において共通するものが多い。

4. 「知りたい」職業のランキング

次に、「知りたい」職業のランキングを上位(表3)・下位(表4)それぞれ30位まで表示しよう。ここでも日本労働研究機構(2001)の結果を参照・引用して、高校生に対する調査結果と比較しながらみていくことにする。調査票では、イメージできる・できないにかかわらず「知りたい」と思う職業に印を付けるよう指示されているので、数値はそのまま指摘率を表す。

表3 「知りたい」職業ランキング・上位

職業名	大・人数	大・%	大・順位	高・「知りたい」%	高・順位
中学校教員	16	69.6	1		
大学・短大・高専学校の教員	20	69.0	2		
高等学校教員	17	68.0	3		
商品開発部員	19	65.5	4		
小学校教員	18	62.1	5		
ソフトウェア開発技術者	14	60.9	6	27.36	27
中小企業診断士	17	58.6	7		
行政事務員(公務員)	13	56.5	8		
コンピュータ設計技術者	16	55.2	9	30.04	16
花火師	16	55.2	9	33.08	6
システムエンジニア	16	55.2	9		
学校事務員	16	55.2	9		
言語聴覚士	12	52.2	13		
プログラマー	13	52.0	14	31.47	9
インテリアデザイナー	13	52.0	14	31.60	8
心理学者	15	51.7	16	39.80	1
写真・映像処理オペレーター	14	48.3	17		
ホテル支配人	14	48.3	17		
スクールカウンセラー	14	48.3	17		
保育士	14	48.3	17		
スタイリスト	14	48.3	17	31.31	10
会社経営者	12	48.0	22		
専修学校教員	12	48.0	22		
日本語教師	12	48.0	22		
発明家	12	48.0	22		
視能訓練士	11	47.8	26		
工学研究者	11	47.8	26		
ファイナンシャルプランナー	13	44.8	28		
ファッション商品販売員	13	44.8	28		
気象予報士	13	44.8	28		
司法書士	13	44.8	28		
俳優	13	44.8	28		

表4 「知りたい」職業ランキング・下位

職業名	大・人数	大・%	大・順位	高・「知りたい」%	高・順位
繊維保全工	0	0.0	1	5.07	6
タイル・れんが工	0	0.0	1	5.93	20
建築板金工	0	0.0	1	6.43	29
左官	0	0.0	1		
防水工	0	0.0	1	4.94	5
印刷営業部員	0	0.0	1		
ビル清掃員	0	0.0	1		
清掃作業員(ごみ収集作業員)	0	0.0	1		
ガソリンスタンドサービススタッフ	0	0.0	1		
タクシー配車オペレーター	0	0.0	1	5.83	19
圧延工	1	3.4	11		
織布運転工	1	3.4	11	5.42	12
トンネル掘削作業員	1	3.4	11		
鉄骨工	1	3.4	11	5.58	16
土木作業員	1	3.4	11		
サッシ工	1	3.4	11	5.32	11
テラー・貸付係	1	3.4	11		
新聞配達員	1	3.4	11		
港湾荷役作業員	1	3.4	11		
合板工	1	4.0	20	4.70	3
紡績運転工	1	4.0	20	4.70	3
建築ブロック工	1	4.0	20		
スーパー生鮮食品販売員	1	4.0	20		
クリーニング師	1	4.0	20	5.46	13
水産技術者	1	4.0	20		
林業技術者	1	4.0	20		
タイヤ製造工	1	4.3	27		
レジ係	1	4.3	27		
警備員	1	4.3	27		
競輪選手	1	4.3	27	5.30	9
稲作専業農家	1	4.3	27		

ここでも、大学生の「知りたい」職業（表3）は高校生のそれと異なるものが多く、上位30職業で共通するのは7つに過ぎなかった。反対に大学生が「知りたい」と思わない職業（表4）については高校生のそれと共通するものが増えており、上位30のうち12の職業が重なっていた。

5. 「やってみたい」職業のランキング

続いて、「やってみたい」職業ランキングの上位を30位まで表示しよう（表5）。やはり日本労働研究機構（2001）の結果を参照・引用して高校生調査の結果と比較してみる。調査票では、「知りたい」と答えたものについてさらにやってみたいかどうかを尋ねている。したがって指摘率そのものが小さくなるため、ここでは「やってみたい」職業の上位のみ表示しよう。

表5 「やってみたい」職業ランキング・上位

職業名	大・人数	大・%	大・順位	高・「知りたい」%	高・順位
高等学校教員	13	52.0	1		
中学校教員	11	47.8	12		
小学校教員	13	44.8	3		
大学・短大・高専学校の教員	13	44.8	3		
ソフトウェア開発技術者	10	43.5	5	14.75	27
学校事務員	12	41.4	6		
発明家	10	40.0	7		
学習塾講師	9	39.1	8		
幼稚園教員	9	39.1	8	16.65	18
商品開発部員	11	37.9	10		
行政事務員(公務員)	8	34.8	11		
教育・研修事務員	8	32.0	12		
秘書	8	32.0	12		
写真・映像処理オペレーター	9	31.0	14		
気象予報士	9	31.0	14		
探検家	9	31.0	14	18.12	10
書店店員	7	30.4	17	17.53	11
芸能マネージャー	7	30.4	17	15.64	23
グラフィックデザイナー	7	30.4	17	18.54	7
日本語教師	7	28.0	20		
ミュージシャン	7	28.0	20	18.91	5
放送ディレクター	7	28.0	20		
システムエンジニア	8	27.6	23		
ファッション商品販売員	8	27.6	23		
スクールカウンセラー	8	27.6	23		
保育士	8	27.6	23		
盲・聾・養護学校の教員	8	27.6	23		
ラジオ・テレビ放送技術員	8	27.6	23		
和菓子職人	6	26.1	29	16.77	16
OA機器インストラクター	6	26.1	29		
栄養士	6	26.1	29		
映画・テレビ監督	6	26.1	29		
宇宙飛行士	6	26.1	29	17.53	11

表5を見ると、教職課程の授業における調査であり調査対象者が課程履修者に限られるため

に、上位には教員や学校・教育関係の職が並んでいる。この点は本調査における特殊性のひとつである。そのためもあってか、33職業中、高校生の「やってみたい」上位30の職業と重なるのは9職業に過ぎない。

なお、調査では「知りたい」と思う職業の中からさらに「やってみたい」と思う職業を指摘するように指示されているので、指摘率そのものは小さくなる。大学生対象の今回の調査では指摘率が0%の（「やってみたい」と思う者が皆無の）職業が85にもものぼった。そのため、紙幅の制約上、「やってみたい」と思う職業ランキングの下位については表示しないが、高校生の「やってみたい」職業の下位30とは16の職業で重なっていた。やはり、「やってみたい」と思わない職業において、大学生と高校生の共通性が高いことが明らかだ。

以上、簡単に結果だけを提示してきたが、全体的にいえることは、「イメージできる」、「知りたい」、「やってみたい」というポジティブに認知される職業は概して高校生との共通性が小さく、「イメージできない」、「知りたい」と思わない、「やってみたい」と思わないとネガティブに認知される職業には高校生と共通するものが多いということだ。ここで、「イメージできない」は、職業名からその職業の内容についてイメージできるか否かという職業認知の上で最も基本的な情報を、「知りたい」は、職業名からその職業についてどの程度さらに詳しい情報や知識を得たいと思っているのかという職業認知の傾向を、「やってみたい」は、単に興味関心をもって情報を知りたいと思う以上に将来の現実の職業としてどの程度考慮しているのかという職業認知の傾向を、それぞれ表していると考えられる。そこで以上の結果は、次のように解釈できる。

まず、「イメージできる」、「知りたい」、「やってみたい」などポジティブに認知される職業について高校生との共通性が小さいということは、積極的な関心を寄せる職業に対しては学校段階が上がるにしたがい認知が変化するということを表していると考えられる。次に、一方で「イメージできない」、「知りたい」と思わない、「やってみたい」と思わないとネガティブに認知される職業には高校生と共通するものが多いということは、逆に、積極的な関心を寄せていない職業に対しては認知は変化しにくいということだろう。これに関連して日本労働研究機構（2001）では、「イメージできる」について、「中学から高校にかけて職業に対する知識は不可逆的に増大している」こと（p. 60）、「知りたい」についてはこの「意味での職業に対する興味はむしろ中学生から高校生にかけて失われていく傾向にあり」、とりわけ「アルバイト関連の職業」や「「夢」の職業」に対して「ネガティブに表現するならば「夢」を失うという形で、ポジティブに表現するならばステレオタイプな（性別それぞれに人気や憧れがあるような—引用者注）職業興味を脱し、「現実性」を増すという形で、知りたい職業は変化している」こと（pp61-62）、「やってみたい」についても「知りたい」と同様の傾向であることが、示されている。

そうだとすると、今回の大学生対象の調査ではサンプルが少ないために「夢」を失い「現実性」を増しているのかどうか判断しがたいが、少なくとも職業認知の変化は、本人が積極的な関心を寄せる職業の領域で生じており、積極的な関心が寄せられてこなかったような職業も含めて幅広い職業に対する知識や情報を獲得するには、学校段階が上がったとしても決してなっていないと考えることができる。

6. 学部別「イメージできない」「知りたい」職業のランキング

なぜ職業によって積極的な関心の差が生じるのか。その理由のひとつとして、日本労働研究機構（2001）が指摘するようにステレオタイプの職業認知が関係しているのかもしれない。またひとつには、学習経験との相関が小さくないといえる。性別についてここで検討する余地はないが、今回の大学生調査では学部別の結果を比較することによって、この学習経験との相関を推し測ることができよう。いうまでもなく本学工学部の学生は工業科の教員免許状取得を目指しており、なかには工業高校の出身者も少なくない。他方、経営情報学部の学生は商業科の免許取得を目指し、やはり商業高校の出身者が含まれている。このように、関心や学習経験の違いによって、「イメージできない」「知りたい」と認知する職業領域に差が現れるかどうか、以下にその結果を見てみよう。

(1) 学部により差がみられる「イメージできない」職業のランキング

まず、「イメージできない」職業のうち学部間で指摘率の差が大きかった職業を各学部の上位から10位まで表示してみる（表6）。

表6 学部別「イメージできない」職業・差の大きい上位²

職業名	工・「イメージできない」%	商・「イメージできない」%	工-商・差
トリマー	62.5	23.1	39.4
証券アナリスト	57.1	18.2	39.0
中小企業診断士	37.5	0.0	37.5
マーケットリサーチャー	57.1	22.2	34.9
公共職業安定所職員	50.0	15.4	34.6
テクニカルライター	78.6	45.5	33.1
公認会計士	28.6	0.0	28.6
カスタマーエンジニア	64.3	36.4	27.9
DPEショップ店員	81.3	53.8	27.4
ファイナンシャルプランナー	50.0	23.1	26.9
紙器製造工	21.4	66.7	-45.2
鋳物工	35.7	81.8	-46.1
染織工芸家	7.1	54.5	-47.4
林業技術者	7.1	54.5	-47.4
エレベーター据付工	14.3	63.6	-49.4
NC研削盤工	50.0	100.0	-50.0
鍛造工	35.7	88.9	-53.2
バイオロジー研究者	28.6	81.8	-53.2
金属プレス工	7.1	72.7	-65.6
原子力技術者	21.4	88.9	-67.5

² 学部間で指摘率の差が大きかった職業を各学部の上位から10位までを表示した。表中の「工」「商」は、取得する免許教科の略である。

朝日 素明：大学生の職業認知に関する調査

それぞれの学部において指摘率が低い、つまりその職業について「イメージできる」者の割合が大きいために、他方の学部との差が大きくなった職業（証券アナリスト、中小企業診断士、公共職業安定所職員、公認会計士、染織工芸家、林業技術者、エレベーター据付工、金属プレス工）と、反対に各学部において指摘率が高かった、すなわちその職業について「イメージできない」ために、他方の学部との差が大きくなった職業（テクニカルライター、DPEショップ店員、鋳物工、NC研削盤工、鍛造工、バイオロジー研究者、原子力技術者）があることがわかる。ただ、このようにしてみると、学部による傾向は明らかなように思われる。

(2) 学部により差がみられる「知りたい」職業のランキング

次に、「知りたい」職業のうち学部間で指摘率の差が大きかった職業を各学部の上位から10位まで表示してみる（表7）。

表7 学部別「知りたい」職業・差の大きい上位

職業名	工・「知りたい」%	商・「知りたい」%	工-商・差
工学研究者	71.4	11.1	60.3
パークレンジャー	50.0	0.0	50.0
パヒューマー	42.9	0.0	42.9
国連職員	56.3	15.4	40.9
エンジン設計技術者	43.8	7.7	36.1
医療ソーシャルワーカー	43.8	7.7	36.1
CADオペレーター	57.1	22.2	34.9
航空機械設計技師	50.0	15.4	34.6
バイオケミカル技術者	50.0	18.2	31.8
原子力技術者	42.9	11.1	31.7
人類学研究者	42.9	11.1	31.7
社会保険労務士	14.3	66.7	-52.4
図書編集者	14.3	66.7	-52.4
広報事務員	0.0	54.5	-54.5
法務教官	0.0	54.5	-54.5
公認会計士	21.4	77.8	-56.3
税務職員	7.1	63.6	-56.5
受付事務員	6.3	69.2	-63.0
医療事務員	0.0	66.7	-66.7
通信販売受付事務員	0.0	66.7	-66.7
一般事務員	14.3	81.8	-67.5
商品管理係	7.1	77.8	-70.6

表7を見てみても、表6と同様の傾向がうかがえる。つまり、工学部の学生は現在、各学科において工学・工業の知識やスキルを高めつつあり、また過去に工業高校などで学んだ経験をもっている。一方、経営情報学部の学生は同様に、経済学・経営学・商業に関して学びつつあり、また一部の学生は商業高校で学んだ経験を有している。このような学習経験がある職業領

域に対する指向性を強めたり、反対に、そうした指向性がある分野の学習を促進したりするということは、当然あり得ることである。こうして、自分の経験をもとに職業認知を変化させることはあっても、自分にとって身近ではない領域の職業は考慮されないまま残るのであろう。

引用・参考文献

日本労働研究機構（2001）『中学生・高校生の職業認知』資料シリーズNo.112